

2014 年 9 月 3 日

アジアリーグ加盟チーム各位
各国連盟事務局各位
各国レフェリー委員長各位
各国ゲームオフィシャル各位

アジアリーグアイスホッケー
審議委員長 福田 弥夫
レフェリー委員長 川村 一彦

アジアリーグ 2014/2015 シーズンにおけるルールの適用について

昨日開催されたアジアリーグオーナー会議において、以下の通り決定したのでお知らせします。

1. 国際アイスホッケー連盟におけるルールの変更と現状

国際アイスホッケー連盟は 2014 年/2015 年シーズンから採用する新たな競技規則の制定を行ったが、最終の条文が確定しておらず、現在も字句等の修正作業が継続されている。確定したルールは、国際アイスホッケー連盟のホームページには未だ掲載されておらず、印刷も完了していない。したがって、すべての改正について新たなルールブックに基づいた競技を行うことは困難な状況にある。そこで、今シーズンのスタートにあたり、以下のように取り扱うこととする。

2. 新ルールの導入

国際アイスホッケー連盟の年次総会において確定したルール改正のうち、競技進行に直接影響する重要な改正は、ハイブリッドアイシングの導入、フェイスオフにおける手順の変更そしてアンスポーツマンライクコンダクトの変更である。これらは重要な改正であり、直ちに導入することとする。

① ハイブリッドアイシングを導入する。

② フェイスオフに際して、これまではアタッキング側の選手が先にスティックを氷に付けることとなっていたが、改正に従い、ディフェンディング側の選手が先にスティックを氷に付けることとする。これに伴い、フェイスオフに際しての選手のポジション取りも変更され、ディフェンディング側の選手がポジションについた後、それに合わせてアタッキング側の選手がポジション取りすることを認める。なお、選手交代の優先順位はこれまで通りホームチームが優先権を有する。

- ③ アン스포ーツマンライクコンダクトは、これまで選手に対してミスコンダクトペナルティーを科すものとされていたが、ルール改正により当該選手に対して2分間のマイナーペナルティーが科せられることとなった。そこで、この改正に従って、最初アン스포ーツマンライクコンダクトには、2分間のマイナーペナルティーを科すものとする。ただし、ホイッスルが吹かれた後にゴールキーパーに向けてシュートを打つ行為に関しては、これまで通りミスコンダクトペナルティーが科せられる。

3. レフェリー報告書及び追加処分のガイドラインについて

ゲームミスコンダクトペナルティー以上の反則が発生した場合、レフェリーは報告書を作成し、アジアリーグが定めている追加処分のガイドラインに従って、追加処分が科されることになるが、新ルールブックが完成していない現状では、新ルールの条項に基づいた報告書の作成及び追加処分を行うことが出来ない。そこで、国際アイスホッケー連盟が新ルールブックを確定し、ホームページに公表し、各国において新ルールのルールブックが整うまでの間は、改正前のルールの条項に従ってレフェリー報告書を作成することとする。追加処分も、これまでの追加処分のガイドラインに従って行うこととする。新ルールブックへの移行が各国において行われた場合には、アジアリーグ審議委員会が定める移行日から新ルールの条項に基づく報告書の作成と、追加処分を行うこととする。

4. 新ルールにおける新たな反則行為について

新ルールでは、新たな反則行為として **Slew Footing** 設けられ、マッチペナルティーを科すものとされているが、この反則の具体的な内容は、相手選手の足又はスケートを背後等から蹴る行為であり、従前のキッキングの反則を場合分けした内容となっている。そこで、上記3と同様に、新ルールブックへの移行が完了した段階で **Slew Footing** に該当する行為が発生した場合には、**Slew Footing** の反則を科するものとし、それまではキッキングの反則で対応することとする。

5. 追加処分のガイドラインの変更について

新ルールの施行に伴い、従前は複数のセクションに分かれていた反則が統合されたため、追加処分の決定に際して、選択の余地が発生する可能性がある。その場合は、従前のルールに従って、追加処分を決定することとし、新ルールに従った追加処分のガイドラインの全面的な改定は、次シーズンからの実施（2015/2016 シーズン）に向けて行うこととする。